

会議開催結果の概要

会議の名称	第5次大分市国際化推進計画策定委員会 第4回策定委員会
会議の開催日時	令和6年11月27日(水)9時27分～10時58分
会議の開催場所	大分市役所議会棟 第4委員会室
会議の公開または 非公開の区分	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
傍聴者数	なし
出席委員	(委員長)下田 憲雄 (副委員長)中村 志信 (委員)伊藤 精、太神 みどり、板井 恭子、石丸 直子、 楊 佳、宮瀬 とも子、永田 佳也、正池 功、高田 隆秀 以上11名
会議の議題	議事1 (仮)大分市国際化・多文化共生推進計画(第5次大分市国際化推進計画)の素案について 議事2 その他

第4回策定委員会

開 会

＜議事1: (仮)大分市国際化・多文化共生推進計画(第5次大分市国際化推進計画)の素案について＞

■ 事務局より素案について説明

【質疑応答】

委員	8ページの上の人口減少社会の到来のところで、0～14歳、65歳以上の色分けをした方が、どのような減り方をするかについて理解しやすいと思う。
事務局	こちらに関しては、国のデータをもとに作成している。色分けが可能かどうか検討いたしたい。
委員	24ページに評価見込みという言葉がある。2023年度時点で区切るのか、もしくは2024年度までのデータで表を完成させて示すのか。
事務局	これについては、現状、2023年度までの数字でしか評価ができていないため、その点をどうするか事務局で再検討いたしたい。
委員長	2023年度までの実績値で良い。固定された評価の部分を記載しておく方が良い。 ただ、機動性があるのが Web 版であるため、評価が確定したときに更新していただきたい。
事務局	第4次計画の最終的な評価を掲載する必要があるため、そちらで最新の情報で掲載いたしたい。
委員長	素案の最後のページに二次元バーコードが掲載されている。そちらにリンクを貼り、最新版がわかるようにしておけば良い。
副委員長	具体的な取組みとして、もう少し留学生へのサポートが充実することを希望する。 外国人数が増えていると思うが、労働力人材とマネジメント職等の何らかの高度な知見を要する人材に大きく分けられると思

	う。特にマネジメント職などの業務を担っている高度外国人材の方は、ある程度、長期間定住することが期待される。 本来であれば、そのような高度外国人材を呼び込みたいが、すぐに実現するには難しい面もある。しかし、高度外国人材の卵となるのは、大分にいる外国人留学生だと思う。 彼らが大分に定住したいと思えるようなサポートがあると、就職先として大分でそのまま働くことにも繋がる。 大分市の近隣には立命館アジア太平洋大学（APU）があるが、大学はAPUでも実際に住むのは大分市、働くのも大分市ということも想定される。そういった外国人留学生をいかに捕まえることが出来るかという施策が、中長期的に見るととても大事だ。 もちろん、既に素案に記載いただいているような外国人全体への生活面のサポートも大事だが、加えて、特に外国人留学生へのサポートを充実させていただきたい。 例えば、現在の取組みで、留学生が大分市民へ何か外国の事を教えるというものは多くあるが、大分のことを留学生に教えて、大分のことを知っていただくことも必要である。 留学生が大分の素晴らしい部分を知り、長く在住/定住したいと思えるイベントや交流があると良いと思う。
委員	日本語教室にも留学生が来ているが、仕事が見つからないため、他県に引越したり、帰国してしまったりすることがある。 企業側に受入れを考えていただきたい。
委員	留学生の就職に関して、留学生を採用する企業の情報の集約や留学生が企業を見に行くチャンスなどがまだ足りていないと感じる。 昨年、商工会議所の青年部と留学生の交流会を実施した。留学生は大分市内の会社で働く会社員と実際に話すことができたという好意的な意見が多かった。 一方、会社側もこれまで留学生と話せる場がなかったため、この機会はありがたかったという感想を多くいただいた。 そういった場を作るなど公的な施策を実施してもらえるとありがたい。
委員	大学コンソーシアムおおいたと大分市が手を組んで共同でやっていくというのがベストだと思う。現在、60%の留学生が日本での就職を希望しているが、35%しか就職できていないというのが現実で、それを50%まで持っていくということを国は決め

	ている。 かつ、緩やかな判断、関連性があれば就職できるように許可をするという流れが専門学校にも及んでおり、近年さらに就職しやすくなっている。 大学コンソーシアムおおいたと大分市が協力しながら情報発信やマッチングをするというのは面白いと思う。
委員長	留学生向けのインターンシップというのがカギになると思う。 大都市との給料格差が激しいので、大分大学はかなりの人数が東京で就職をしている。外国人は、転職が当たり前だと思っていることを企業が理解しておかなければならない。 そのような違いがあるため、グローバルな経営方針について企業側に理解してもらう必要があり、そのようなことの情報発信も必要だと思う。 今回は文章の中に、「留学生の大分市への就職定着を目指した活動への支援を行う」というような文章が計画に入っていると今後の施策に結び付くのではないかと思う。 留学生が本市で働いてくれると国際化を担う人材育成の部分でダイレクトに効果が出るのではないかと思う。
事務局	検討いたしたい。
委員	数値目標で、27ページの日本語教室の担い手の育成だけ2024年度実績値を採用としているが、今年度初めて行う予定だからか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員	大分県が日本語ボランティアの講座を行っている。
事務局	おおいた国際交流プラザが開催すると元々国際交流などに興味のある方が参加するが、一般市民に広くこのような取組みを知ってもらうため、今回はじめて大分市主催で開催する。 12月の市報に掲載をしており、すでに数件問い合わせがあった。
委員	32ページのインバウンド観光の推進のところだが、大分市の場合、他都市と差別化をして、外国人を直接呼び込むという部分は弱いと思う。

	33ページの外国人観光客宿泊客数を数値目標で挙げているが、現実的に別府や湯布院に来た方で泊まることのできない方が大分市に泊まっていたただけでも、その部分は随分変わってくるはず。 今後は、できれば宿泊関係の事業者の方と意見交換をして、そういう部分をうまく大分市に呼び込んでいけるようなものを考えていければ良いと考えている。 そのような視点が必要なのではないかと思う。
委員長	別府や湯布院が宿泊客でいっぱいという場合に、他県に行ってしまう可能性がある。別府まで歩いて行ける距離なので、そのようなPRもあると思う。
事務局	うみたまごなどは距離的に別府から近いので、別府に宿泊した方なども観光で来られることが多いと思う。 また、さきほどの委員の発言のとおり、大分市には高崎山、うみたまご、関崎海星館などがあるが、なかなか集客に結びついていない。 先日、中国の方が来られた際にドラッグストアなどで大量の買い物をしていた。観光ではないが、宿泊してもらうため、1つの例としてそういう場所が大分市にたくさんあるなどというアピールも考えられる。
委員長	留学生は帰国前に必ずそういったところで、大量に買って帰国しているので、そのような視点は良いと思う。
委員	もしかしたら我々の気がつかない魅力は他にもあるかもしれない。留学生に大分のホテルや旅館に就職してもらい、外国人にそれをアピールしてもらう。そういう方々がまた違う魅力を引き出してくれるかもしれない。
委員長	今回は本計画を製本しないと思うが、ホームページ上に電子ブック媒体で完成させるのか。
事務局	PDF データを載せる形で、発行は令和7年3月になる。 令和7年7月に一部改定などの形で見せることが可能であれば、検討いたしたい。

副委員長	32ページに記載のインバウンド観光推進について、ホームページや観光パンフレット・ガイドブックの多言語化を進めることに異存はないが、紙媒体のパンフレットやガイドブックにコストをかけるよりも、SNS 等を活用した情報発信の方が、圧倒的に費用対効果が高い。 写真や動画を投稿するだけで、言葉がなくとも、世界中の誰かが「大分のここに行ってみたい」と思ってくれることも多々ある。大分市内で立派なパンフレットを作って待っているより、SNS 等、特に動画の配信が望ましいと思う。 日本企業と外国企業の商談会を行う際にも、最近では動画が多く活用されている。商品の使用目的、形や量や大きさなどは、動画を見ると一目瞭然である。 逆に、紙の資料では、大きさが何センチで重さは何グラムと書いていても全然伝わってこない。やはり動画は今の世界的なトレンドだと思うので、SNS 等での動画配信については是非注力してほしい。
委員長	SNS は媒体自体がどんどん変わっている。昔優位だった媒体が今は下火になっていたりすることがあるため、SNS とだけ記載をし、どの媒体を使うかはその時々により1番使われている媒体が良い。 大分市の取組みを国内に発信するのであれば、現在トレンドになっている note 等で取組みを紹介していくのが良いと思う。 興味を持った方々が大分市に来てくれる可能性はあると感じるし、今は様々な媒体があるので、検討していただきたい。
委員	大分国際車いすマラソンや OITA サイクルフェスなどのイベントは大分にとってとても良いイベントだと思う。 それらが、インバウンドに結びつき、レースの魅力を動画で世界中に発信するとともに、旅行パッケージ等を旅行会社と提携することでインバウンドと国際的なイベントがつながると良いと思う。 例えば、大分国際車いすマラソンのときに大分市内のホテルは満杯になるのだろうか。
委員	例えば、別大毎日マラソンの時は満杯になるが、大分国際車いすマラソンの際はまだ余裕がある。

委員	あのイベントのときはいつも大分市に泊まるところがないといったように、イベントもホテルもどんどん有名になると良い。 観光単独だと大分市は弱いので、このようなスポーツイベントなどとタイアップして、実際にそのスポーツを見ると魅力も伝わる。 若者は動画を見ることが多いので、先ほど副委員長からもあったように情報発信を強化していただきたい。
副委員長	動画だと説明があまりいらない。「場所は大分」ということだけを示して、あまり時間の長くない動画を流すと、コストもかけずに行えると思う。
委員長	32ページの取り組み例の写真はどのようなものが入るのか。
事務局	まだ具体的な検討は行っていない。
委員長	リンクで動画に飛ぶのも面白いかもしれない。発言のあった大分国際車いすマラソンやうみたまごの動物などを入れてみてはどうか。 このような計画書は硬くて、文章を書いても読んでももらえないため、動画をリンクさせてそういったイベント等を知ってもらうと良いのではないか。
委員	33ページ、外国人材の雇用促進の取組項目の中に、雇用促進に向け、大分労働局、大分県などの関係機関等と連携を図りますとの記載があるが、海外から直接大分市に来てもらうなどの取組みはしないという理解でよいのか。
事務局	海外の特定の都市と協定を結んで直接人材を呼び込むといったところまでの計画は考えていない。
委員	国は、9月から無償で外国人と企業のマッチングを行っている。もし、外国から直接大分市に来てもらうということになると、様々な機関と連携しないと企業と外国人のマッチングを行うことはできない。 国内だけで行うのであれば、これで良いと思うが、どうやってマッチングを行っていくかということを考えると、連携する機関が少ないのではないかと感じた。 直接外国人に大分市に来てもらいたいのか、それとも留学生を

	ターゲットとしているのか。
事務局	外国人材の雇用促進については、留学生に対する部分と、海外から入っていただく方の両方が含まれている。 現状としては大分県や大分労働局との連携ぐらいしかないが、今後、さらに外国人材が求められていく状況となった場合には、果たしてこれだけで足りるのかというところは、再度担当課と協議をして連携機関の精査を行いたい。
委員	現在、特定技能での来日が多い。これから減ることもないと思うので、登録支援機関等と情報交換をするなど、そういったところにも目を向けると幅広く、大分に来てもらえるのではないかなと思う。
委員	現在記載のある関係機関「等」というところで、そのような団体を含む意味で記載しているが、もう少しそのような部分を出した方が良いということであれば、表現等を検討いたしたい。 考え方としては、表現が控えめになっているが、事務局が説明したとおり、両方の意味を含んでいる。
委員長	もう少し強い表現を用いた方が、市民の方も動きが理解できると思う。
委員	インバウンド観光の推進について、様々な動画を流すということは大切だと思うが、ホーバークラフトが使えるようになり、観光客が大分空港から大分市へ移動する手段が1つ増えたということを経験として発信するのは非常に良いと感じる。 ホーバークラフト自体が珍しいため、それを体験できるということは価値があると思う。
事務局	ホーバークラフトはイギリスと大分の2か所だけであるため、大分市の魅力になると思う。
委員長	海上を走っているところより西大分に停泊している写真を掲載すると西大分周辺の発信にもなると思う。
委員	西大分港に着いてからのアクセスが課題である。港に着いてから大分市にどうやって観光客を呼び込むか。 先日ホーバークラフト見学に留学生を連れて行ったところ、とて

委員	も喜んでいた。就航前であるため、動いていなかったがそれでもあれが1番良かったという感想であった。 海外の方や乗り物愛好家の方などはとても好きなものだと思うので、写真や動画を入れていくと、これが大分にあるなら行きたいという方がいるはずである。 留学生の雇用促進や大分県、大分市の魅力を知ってもらう目的で、大分県も私費外国人留学生を対象としたスタディーツアー開催している。今年度の1回目はホーバークラフトの見学に行き、その後は企業の説明を受けたり、企業と直接話をしたりする機会があった。 このイベントに参加した方には、イベントの様子を自分の SNS に載せてもらうという課題があり、大分市もスタディーツアーやビジネスツアーなどの実際に企業を見に行く機会を設けてみてはどうか。 外国人材の雇用促進のところで、JET プログラムを実施しているクレアは毎年 ALT と CIR に向けて、就職の支援を行っている。 日本式就職ウェビナー、インターンシップやキャリアビジョンの研修等をたくさん行っているため、クレアと何らかの連携をして、企業とのマッチングなどを行うときには大分市の企業もそれに参加する形で連携をするのが良いと思う。
委員	ALT 経験後、就職先がなく、自分で語学の指導を行っている方もいる。そのような方の起業をバックアップできる体制も考えていただきたい。
委員長	留学生が民間アパートに住んでいることがあるが、地元住民との関係が良いことも悪いこともある。 ゴミ出しのルールを守らないなどの様々なクレームを受け、指導をしたりすることがある一方、地元住民の方たちは留学生との交流を望んでいたりすることもある。 その自治会の方は国際交流のやり方がわからないという場合が多く、大学でゴミの出し方について大分市から来て指導をしてもらっているなどという事実もあり知られていない。 自治会の情報について知りたいときにわかるような仕組みがあると留学生がもう少し地域に溶け込んでくれるのではないかと感じるし、相互理解が深まる。 その地域ごとに地域の繋がりや自治会への参加について共有

委員	するような手順のパンフレットのようなものがあって自治会長や自治会の方々がわかるようになると理解が深まると思う。 そういったところへの情報発信、パンフレットのようなものがあると良いと思う。
事務局	自治会の方々と技能実習生が月に1回食事を行う会を行い、技能実習生が地域の方々と良い関係を築いている地区もあるので、何らかの形で交わる方法を指導してあげるとするのが良いと思う。
委員	補足だが、自治委員に配るもののの中に外国人に対する人権だとかそういった文言を記載しているハンドブックがある。 また、外国人と交流の機会を設けようとしても関係性が構築できていない地域だとイベントなどの案内をしても、参加がないというような地区もあり、そこをどうやって繋げていくのが課題だと認識している。
事務局	区長(自治委員)を集めて教えるということをしてはどうか。 私の地区には移住者が1人いるが、区長がいつも声をかけている。
委員長	現状、市としてもこうしたら良いというものを持ち合わせていない状況である。今後研究をしていかなければならない部分だと考えている。
委員長	パンフレットの説明会だけでも良いと思う。 長浜地区は大分大学の国際交流会館があり、留学生が周りに迷惑かけていたが、自治会長が非常に熱心で様々な指導などをしていただいていた。 そういったものが大分市全体にひろがると良い。 素案の修正作業については事務局が修正を行うが、委員長の私も確認しながら進めていく。

<議事2:その他>

■ 事務局より今後のスケジュールについて説明

閉 会